

令和6年度北本市立東小学校 自己評価及び学校運営協議会評価書(まとめ)

評価項目	No.	観 点	自己評価		外部評価		
			A+B /全体 (%)	自己評価についての説明及び来年度に向けての改善策	自己評 価の適 切さ	改善に 向けた 取組の 適切さ	学校の取組に関する評価と今後の改善点等
組織運営	1	学校教育目標の具現化に向けて、教育課程の編成、指導計画の作成等に工夫している。	91	1.学校教育目標の具現化に向けた教育課程の編成、指導計画の作成等について ・教職員が協力して達成している。 2.PDCAサイクルを生かした学級経営や教科経営・校務分掌について ・教職員が協力して達成している。 ・各担当が責任を持って達成している。 3.事故やトラブル等への迅速な対応について ・素早く連携して達成している。 ・倫理独立委員等での周知で危機管理体制が整っている。 4.クラスにアレルギーを持つ子がいないため、少し鈍くなっていると思う。 5.組織的な生徒指導について ・素早く連携できている。 ・赤ファイルや、生徒指導、教育相談が月に一回あることはよいことである。 ・レコーディングシートは大変有効である。	A	A	3.アレルギーの対応は最終的にはクラスで行うことであるが、学校全体で危機管理体制を毎年確認する必要がある。 3.アレルギーに関しては改めて緊張感を持ち、対応することが望ましいと思います。
	2	PDCAサイクルのもと学級・学年経営や教科経営・校務分掌にあっている。	95	・学年や管理職、生徒指導主任も積極的に関わっている。 ・全職員が生活のきまりに従って指導する必要がある。 [改善策]引き続き教職員が連携して取り組むことで効果的な組織運営を行っている。	A	A	
	3	事故やトラブル等に対してのマニュアルを作成・指示・活用し、迅速に対応している。	100	・素早く連携できている。 ・赤ファイルや、生徒指導、教育相談が月に一回あることはよいことである。 ・レコーディングシートは大変有効である。	B	A	
	4	すべての教育活動を通じて、教職員の共通理解のもと、組織的に生徒指導にあっている。	95	・学年や管理職、生徒指導主任も積極的に関わっている。 ・全職員が生活のきまりに従って指導する必要がある。 [改善策]引き続き教職員が連携して取り組むことで効果的な組織運営を行っている。	A	B	
基礎学力の徹底	5	児童は、落ち着いた学習内容を理解しようとしている。	82	5.児童の学習内容の理解について ・課題のある児童が多く、保護者の協力が必要である。 6.学力向上を目指した授業改善について ・国語・算数のノートの書き方(特に算数)を統一することで、学年間の学びの接続がスムーズに行うことができる。 ・これまで年度当初に例示は出されるが、周知されていないところが課題であった。 ・ノートの書き方プリントをノートの表紙裏に貼る。ノートが新しく変わった後も継続できるよう、プリントを印刷室に常備する(低学年・中学年・高学年)。 ・ノートの書き方シートを作成し、各学級に保管する。適宜活用する。 ・学習プリントの活用や授業の進め方についてのマニュアル作成。 7.基礎学力の定着や学習規律の確保について ・県学習の傾向を元に、宿題の方法などを考える。 ・学習に合う意識が高まっているが、1割は十分ではないと考える。 ・集団生活の中で特異にする経験、機会を設定する。学習規律の確立や社会性の向上につながる。 8.家庭学習の定着に向けた家庭への働きかけについて ・就学支援の多さが物語っています。保護者の協力なしでは難しい。 ・丸付けなどない家庭もあり、懇談会などにも出席しないため、個別対応になる。 [改善策]ノートの書き方について共通理解を図り、児童のノートにノートの書き方プリントを貼る。家庭学習について、懇談会やメール配信を活用して家庭へ協力をお願いしていく。	A	A	6.ノートが特性的に苦手な子供はバツへの入力は許可しているのでしょうか。発達特性のお子さんにはノートがどうしても苦手なお子さんの対応はどうしているのでしょうか。 8.早い段階で学校の方針等について理解をしてもらうために一年生の懇談会の出席を強制してはどうか。 8.まず家庭が子どもの第一教育者であることの認識を持ってもらうことも重要だと思います。 8.懇談会に出席しない、できない保護者について。かつて私も体調不良やオネオネなど思うように外出できない時期がありました。そのような保護者のためにもオンラインを導入するのはどうでしょうか。対面が当たり前の世の中でもなくなり、ハイブリッドだと出席率が上がると予測しています。 8.家庭学習について、協力を呼び掛けるだけでは、改善は難しいのではないかと。具体的に保護者の協力を仰ぎたい項目を冊子にして「家庭学習の手引き」等を作成してはどうか。 ・児童の授業に取り組み姿勢には評価できますが、課題のある児童については学校だけでなく家庭の協力は絶対なので、そのための工夫も同時に必要だと思います。毎年課題として指摘されていることですね。 ・県平均と比較した時の点数の差が大きい教科ほど、低学年からの積み重ねが必要だと思います。
	6	学力向上をめざし、児童の実態に基づいた授業改善に努めている。	92	・ノートの書き方プリントをノートの表紙裏に貼る。ノートが新しく変わった後も継続できるよう、プリントを印刷室に常備する(低学年・中学年・高学年)。 ・ノートの書き方シートを作成し、各学級に保管する。適宜活用する。 ・学習プリントの活用や授業の進め方についてのマニュアル作成。 7.基礎学力の定着や学習規律の確保について ・県学習の傾向を元に、宿題の方法などを考える。 ・学習に合う意識が高まっているが、1割は十分ではないと考える。 ・集団生活の中で特異にする経験、機会を設定する。学習規律の確立や社会性の向上につながる。 8.家庭学習の定着に向けた家庭への働きかけについて ・就学支援の多さが物語っています。保護者の協力なしでは難しい。 ・丸付けなどない家庭もあり、懇談会などにも出席しないため、個別対応になる。 [改善策]ノートの書き方について共通理解を図り、児童のノートにノートの書き方プリントを貼る。家庭学習について、懇談会やメール配信を活用して家庭へ協力をお願いしていく。	A	A	
	7	基礎学力の定着や学習規律の確保など、共通理解のもと、学習指導にあっている。	95	・県学習の傾向を元に、宿題の方法などを考える。 ・学習に合う意識が高まっているが、1割は十分ではないと考える。 ・集団生活の中で特異にする経験、機会を設定する。学習規律の確立や社会性の向上につながる。 8.家庭学習の定着に向けた家庭への働きかけについて ・就学支援の多さが物語っています。保護者の協力なしでは難しい。 ・丸付けなどない家庭もあり、懇談会などにも出席しないため、個別対応になる。 [改善策]ノートの書き方について共通理解を図り、児童のノートにノートの書き方プリントを貼る。家庭学習について、懇談会やメール配信を活用して家庭へ協力をお願いしていく。	A	A	
	8	家庭学習を定着させるために、家庭に積極的にはたらかしている。	86	・就学支援の多さが物語っています。保護者の協力なしでは難しい。 ・丸付けなどない家庭もあり、懇談会などにも出席しないため、個別対応になる。 [改善策]ノートの書き方について共通理解を図り、児童のノートにノートの書き方プリントを貼る。家庭学習について、懇談会やメール配信を活用して家庭へ協力をお願いしていく。	A	A	
規律ある態度の育成	9	児童は、友達や教職員、来校者に進んであいさつができる。	77	9.あいさつ指導について ・動機づけになっているのなら、あいさつシールを続けてもいいのではないかと。 ・他校よりも挨拶してくれる子が多いため、挨拶をしてくれる子をほめる。 ・校内では挨拶するが、校外では挨拶をしないのは、学校だけの力でなく、家庭と地域を巻き込まないといけない。 ・担任が挨拶を促す。特に移動中などは、教師から挨拶したり、声をかけたりする。 ・授業中などは会釈だけでもいいのではないかと。 10.言葉づかいの指導について ・友だち同士の呼び方も学校だけでは厳しい。様々なコンテンツを無くし、保護者が正しい言葉遣いをしない限りは無理ではないかと。先生だけでも「さん付けで呼ぶ」 11.お互いのよさや努力を認め合った学校生活について ・友達へのよさや努力を掲示した。ステキな実の取組が多かった。 12.規範意識を高める指導について ・学習規律を乱す場合は、4月当初に配った手紙をもとに対処する。これぐらいいいかなや、落ち着いた席にたづなついたらいいやダメ。原則保護者のお迎えや、保護者の見守りをお願いする。 ・特に低学年のころから、時間を守るように指導する。授業中トイレに行かないように指導したり、チャイム着席を心掛ける。 ・きまりについても、教師がしっかりと教えることが大事。 ・親が子どもを教えることをきかないでほしい。(子どもが壁をそめたというから、案めるなど) [改善策]あいさつについて引き続きシールや褒めるなど動機づけを行っていく。言葉遣いについては大人が模範となるように意識する。	A	B	9.挨拶についてはほぼ家庭で決まると思う。保護者に学校で指導することではなく家庭でしつけるものであるという意識を持たせたい。保護者に学校は教育機関であり、しつけは家庭で行うことを理解させたい。 9.来校時に、挨拶が出来ていない児童がいるという認識は少なかったが、引き続き先生方の指導をお願いします。 9.あいさつについては、「地域を巻き込む」というのは良い方法に思います。 9.先生方もはじめとしてのあいさつを引き続き積極的に行っていただきたいです。 9.普段から行っていないあいさつは、その時だけではなかなか難しい。 10.保護者会等で、保護者の協力を仰ぐようお願いしたい。 10.保護者が自分のラインのアイコンで「あいことかえり」などの下の名前前でつけたがり保護者同士がたまたま呼び合うことを求めているので…それが子への影響につながっていると思うのですが、それはなかなか難しい。 12.・外面で大人のようという社会現象がどんどん低年齢化しているが、せめて学校のある平日と休日の区別をしっかりと家庭で管理してほしいが、
	10	児童は、場に応じた正しい言葉づかいができる。	77	・他校よりも挨拶してくれる子が多いため、挨拶をしてくれる子をほめる。 ・校内では挨拶するが、校外では挨拶をしないのは、学校だけの力でなく、家庭と地域を巻き込まないといけない。 ・担任が挨拶を促す。特に移動中などは、教師から挨拶したり、声をかけたりする。 ・授業中などは会釈だけでもいいのではないかと。 10.言葉づかいの指導について ・友だち同士の呼び方も学校だけでは厳しい。様々なコンテンツを無くし、保護者が正しい言葉遣いをしない限りは無理ではないかと。先生だけでも「さん付けで呼ぶ」 11.お互いのよさや努力を認め合った学校生活について ・友達へのよさや努力を掲示した。ステキな実の取組が多かった。 12.規範意識を高める指導について ・学習規律を乱す場合は、4月当初に配った手紙をもとに対処する。これぐらいいいかなや、落ち着いた席にたづなついたらいいやダメ。原則保護者のお迎えや、保護者の見守りをお願いする。 ・特に低学年のころから、時間を守るように指導する。授業中トイレに行かないように指導したり、チャイム着席を心掛ける。 ・きまりについても、教師がしっかりと教えることが大事。 ・親が子どもを教えることをきかないでほしい。(子どもが壁をそめたというから、案めるなど) [改善策]あいさつについて引き続きシールや褒めるなど動機づけを行っていく。言葉遣いについては大人が模範となるように意識する。	A	B	
	11	児童は、お互いのよさや努力等を認め合って学校生活を送っている。	91	・友だち同士の呼び方も学校だけでは厳しい。様々なコンテンツを無くし、保護者が正しい言葉遣いをしない限りは無理ではないかと。先生だけでも「さん付けで呼ぶ」 11.お互いのよさや努力を認め合った学校生活について ・友達へのよさや努力を掲示した。ステキな実の取組が多かった。 12.規範意識を高める指導について ・学習規律を乱す場合は、4月当初に配った手紙をもとに対処する。これぐらいいいかなや、落ち着いた席にたづなついたらいいやダメ。原則保護者のお迎えや、保護者の見守りをお願いする。 ・特に低学年のころから、時間を守るように指導する。授業中トイレに行かないように指導したり、チャイム着席を心掛ける。 ・きまりについても、教師がしっかりと教えることが大事。 ・親が子どもを教えることをきかないでほしい。(子どもが壁をそめたというから、案めるなど) [改善策]あいさつについて引き続きシールや褒めるなど動機づけを行っていく。言葉遣いについては大人が模範となるように意識する。	A	A	
	12	すべての教育活動を通じて、児童に対して規範意識を高める指導を行っている。	100	・友だち同士の呼び方も学校だけでは厳しい。様々なコンテンツを無くし、保護者が正しい言葉遣いをしない限りは無理ではないかと。先生だけでも「さん付けで呼ぶ」 11.お互いのよさや努力を認め合った学校生活について ・友達へのよさや努力を掲示した。ステキな実の取組が多かった。 12.規範意識を高める指導について ・学習規律を乱す場合は、4月当初に配った手紙をもとに対処する。これぐらいいいかなや、落ち着いた席にたづなついたらいいやダメ。原則保護者のお迎えや、保護者の見守りをお願いする。 ・特に低学年のころから、時間を守るように指導する。授業中トイレに行かないように指導したり、チャイム着席を心掛ける。 ・きまりについても、教師がしっかりと教えることが大事。 ・親が子どもを教えることをきかないでほしい。(子どもが壁をそめたというから、案めるなど) [改善策]あいさつについて引き続きシールや褒めるなど動機づけを行っていく。言葉遣いについては大人が模範となるように意識する。	A	A	
健康・体力	13	児童は、体力向上に向け、学校生活全般で意欲的に取り組んでいる。	82	13.体力向上に向けた取組 ・マラソン大会の前には、入れているのは、 ・体育以外でも、体慣らしのために数回あってもいいのではないかと。 ・心臓が急に止まって困るため。 ・これだけは身につけさせたいという技能を明確にし、それを低学年のうちからできるだけクリアできるようにする。 →学習指導要領解説に載っている、技能の一覧表を全教員に配布する。 →段階表は来年度以降、作成できず検討していく。 →授業で使った体育カードを保存するフォルダを作成する。	A	A	13.体力向上に向けた取り組みについては、児童の負担とにならない程度で取り組んで頂きたい。 13.コロナが落ち着いた後、第5類となった今、積極的な体力づくりを始めるといいと思います。(対策も必要かと思うので)体ならしも必要なのではないかと。 14.体育カードの利用は情報の共有としても良いと思います。
	14	児童の健康及び安全についての意識を高めようとしている。	100	14.児童の健康及び安全意識を高める取組について ・養護教諭と保健委員の児童を中心とした取組により成果が上がっている。 [改善策]体力向上委員会・東小体育部に体力向上についての資料(技能の一覧表・体育カード)を作成、共有している。	A	A	
保護者・地域・異校種間連携	15	PTA活動や地域活動等に積極的に協力している。	82	15.PTA活動等への協力 ・教頭として執行部会に参加し、連携を深めている。 ・たぐさ協力していただき、大変ありがたい。 16.各種たりやホームページを活用した教育活動の様子の情報提供について ・学校の教育活動の様子がわかりやすく公開されている。 ・ホームページは、教員の仕事ではないからやめるべきです。 18.異校種間の連携推進について ・中学校との連携を深めていくために今年度中に教務会で年間計画を立ててほしい。 ・市内体育大会や球技大会練習で、中学生のかっこいい姿を6年生に見せられたら良かったと感じた。 ・幼保との連携、さらなる関わり方を模索している。 ・もつと職員同士が話し合ったり、授業や行事で交流した方がいい。 [改善策]引き続きPTAや地域と協力し地域に根差した学校づくりを進めていく。小中連携について教務会を活用して中学校との連絡を密にする。また、中学校の状況を小学校に伝え、情報を共有し協力体制を築いていく。	A	A	15.児童数が少ない状況は、地域との関わりはしやすいのではないのでしょうか。 16.HPの対応に対しては、先生方の思いもそれぞれかも知れませんが、学校について知るには良いと思います。 18.職員同士の交流は必要に思います。働き方改革等、時間の調整等がおたしいとは思いますがよろしくお願ひします。 18.不登校の予防のためにも幼保小連携を強めて欲しい。 ・東中学校でも小中連携は重要な課題と考えている。小学校の先生と中学校側がwinwinの研修となるように、連携が必要である。東中学校では学力向上研究校の指定を受け、県の指導者を頻りに呼べる立場にある。この機会に研修と一緒に深めてほしい。
	16	各種たりやホームページ等で、教育活動の様子や成果、課題等について情報提供している。	100	・学校の教育活動の様子がわかりやすく公開されている。 ・ホームページは、教員の仕事ではないからやめるべきです。 18.異校種間の連携推進について ・中学校との連携を深めていくために今年度中に教務会で年間計画を立ててほしい。 ・市内体育大会や球技大会練習で、中学生のかっこいい姿を6年生に見せられたら良かったと感じた。 ・幼保との連携、さらなる関わり方を模索している。 ・もつと職員同士が話し合ったり、授業や行事で交流した方がいい。 [改善策]引き続きPTAや地域と協力し地域に根差した学校づくりを進めていく。小中連携について教務会を活用して中学校との連絡を密にする。また、中学校の状況を小学校に伝え、情報を共有し協力体制を築いていく。	A	A	
	17	保護者や地域と連携し、不登校対策のバロウールや声かけ運動などの計画を立てて定期的に実施している。		・市内体育大会や球技大会練習で、中学生のかっこいい姿を6年生に見せられたら良かったと感じた。 ・幼保との連携、さらなる関わり方を模索している。 ・もつと職員同士が話し合ったり、授業や行事で交流した方がいい。 [改善策]引き続きPTAや地域と協力し地域に根差した学校づくりを進めていく。小中連携について教務会を活用して中学校との連絡を密にする。また、中学校の状況を小学校に伝え、情報を共有し協力体制を築いていく。			
	18	異校種間の連携を積極的に推進している。	81	・市内体育大会や球技大会練習で、中学生のかっこいい姿を6年生に見せられたら良かったと感じた。 ・幼保との連携、さらなる関わり方を模索している。 ・もつと職員同士が話し合ったり、授業や行事で交流した方がいい。 [改善策]引き続きPTAや地域と協力し地域に根差した学校づくりを進めていく。小中連携について教務会を活用して中学校との連絡を密にする。また、中学校の状況を小学校に伝え、情報を共有し協力体制を築いていく。	A	A	
19	いじめ等、児童のトラブルについて把握をしようとする、適切に対応している。	95	19.いじめ等、児童とのトラブルへの対応について ・連携して防止に努め、速やかに対応している。 ・仲良くアンケートに迅速に対応するようにしています。 ・積極的認知をしていく。 ・レコーディングシートを活用した周知ができています。 ・把握に関する時間はかかりかか、根本的解決に至っていない。 [改善策]引き続きレコーディングシートを活用して情報共有を図り、組織で対応していく。	A	A	19.水面下でのいじめや児童間同士のトラブルは、わかりにくい、引き続き対応をお願いします。 ・東小、東中の校内、教室内に人としてやってはいけないこと「いじめSTOP」とか「人を傷つけない」とか「悪口をSTOP」といった目につく掲示がないのはなぜでしょうか。 ・対応法が多い中でも予防策力を入れ、保護者とともにいじめ防止に取り組むことにシフトが必要で、掲示や保護者への啓発、協力効果があるとエビデンスもあります。なので、入学説明会やPTAの常任委員会等で学びを何年もかけてもする必要があると思います。それがいずれ社会に役立つからと、信じています。 「いじめ」に対する考え方が、とても厳しくなっているため、対応も必要以上に大変かと思ひます。先生方の尽力に感謝。	

学校独自の項目	20	児童の実態を考慮して、学年・学級目標を設定している。	100	20.学年・学級目標の設定について ・教職員が協力して達成している。 ・高学年を意識した指導を行ってきた。実態に合わせて目標は低めに設定した。 21.組織的な環境美化 ・全職員で清掃指導に当たる。職員が清掃時間になったら清掃用具を持って見回りし、児童への声掛けを根強くする。 ・開始時刻で清掃を始め、時間いっぱい清掃することを、全職員で共通して指導する。 ・児童数が減ってきているので、清掃場所を厳選する。(特別教室は使った学級が掃除をする。職員室前の廊下や職員玄関は減らす) ・業者に掃除をしてもらうことを検討する。清掃ボランティアを募集する。 ・清掃用具を新しくする。 ・清掃用具の使い方(掃の使い方、雑巾の絞り方、床の拭き方など)を低学年のうちに身に付けさせる必要がある。 22.教科の年間指導計画について ・年間指導計画は適切である。 ・行事とのやりくりで単元が充分にできないものがある。 [改善策]不具合のある清掃用具を整備する。全教職員で清掃指導に当たり児童に根気強く声掛けをし、美化意識の向上に努める。	A	A	25.食費値上げの中、無料がいつまでできるのか、給食費を世帯収入で決定するとか。 25.偏食、少食の子どもが多い最近、栄養士の先生が工夫し働きかけて下さることはありがたいです。給食の楽しさ、ありがたさ、豊かな給食に感謝して、地域野菜など利用していることなども伝えながら、食べられることの大切さも伝わると思います。	
	21	清掃活動や掲示教育に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	87		A	A		
	22	教科の年間指導計画は適切である。	100		B	A		
	23	児童は、教職員の指導の結果、読み・書き・計算の基礎・基本を身につけている。	82	23.教職員の指導の成果 ・漢字テスト合格するまで取り組む ・家庭学習が身につけていない児童は難しいので、低学年の基礎学習の定着を図れるようにしたいが、支援員が違う役割を担いつつあるのがもったいない。 24.道徳教育を中心とした豊かな心の育成について ・命の大切さや思いやりなど、全校で取り組んでいるのがよい。 25.食に関する指導について ・バクパク通信や栄養士が教室の様子を見に来て、食に関するお話があつてありがたい。 ・何でも先生に任せるのは違う。家庭でやって欲しい。 ・中央の好意が多い(居て)いる 26.特別活動の実施について ・高学年がリーダーシップを発揮できるように助言し、見守ることを心掛けている。 ・高学年が活躍する姿が、下級生にとって良いお手本になっている。 27.児童の読書活動について ・図書室へ意識的に借りに行かせないと読まない児童も多い。なかなか習慣がない。 ・まずは電子化や、図書室に行きたくなるような場所にしたい。 [改善策]学力向上支援員について特別な支援を要する児童への支援だけでなく可能な範囲で算数等クラス全体の学力向上の支援ができるようにする。読書習慣について引き続き図書イベントなどを行い、利用促進を図る。	A	A		
	24	教職員は、道徳教育を中心に、児童に豊かな心を育むよう努めている。	100		A	A		
	25	学校は、栄養バランスのとれた規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めている。	100		A	A		
	26	児童会・委員会・クラブ活動で、児童が主体的に活動している。	100		A	A		
	27	児童は読書の習慣を身につけ、主体的に取り組んでいる。	86		A	A		
	28	学校は、学校応援団と連携を図り、教育活動の充実に努めている。	100	28.学校応援団について ・Googleフォームを活用して学校応援団の連絡調整を図っている。 ・コロナ以降応援団も減少しているのでは。地域の方の協力を得られるとありがたい。 ・運動会、落葉祭はきまりました。 [改善策]引き続き学校応援団と連携し、教育活動の充実に努める。	A	A		・長年の疑問ですが、毎年同じ保護者が友達同士で花の活動をしているのが目につきます。外の人がなれば、もっと希望者が増えるかと予測しています。風通しの問題。 ・学校応援団が活発になると、地域のつながりも強くなると思うので、引き続き呼びかけてください。
	29	教育目標の具現化に向け、研修主題を設定し、指導力の向上、児童の学力向上をめざした研修を推進している。	86	29.研修の推進 ・本校の研究の副題が「聞く・読む・書く活動を通して、学ぶ楽しさを味わえる授業の工夫」に決まった。言語活動の充実に研修を深めることが今後の課題である。 ・学校課題の解決のために、計画的な研修が必要である。 30.働き方改革の推進、業務改善 ・職員会議は退勤時間で終わらせる。終わらない場合は、次の機会を設定する。事前に会議が長くなることが想定される場合は、金曜日に変更するなどの対応を行う。 ・職員会議の起案文書の回覧用紙に、運営委員会等の事前の話し合いが必要となるには記述できる記入欄があることよ。 ・業務分掌の見直し。主任と副主任だけの教科領域が多い。他に部員がいれば、効果的な会議や活動ができるので、複数の教科領域を兼ねても各学年ブロック等で部員を充てる方がよい。 ・学年・教科領域のフォルダ内の整理と次年度への引継データの保存を徹底する。 ・夏季休業中に運営委員会を開催し、学校行事に関する話し合いを行う。 [改善策]研修の推進について「How,Why」型の授業改善、学びポイントを意識した授業づくりを行い教員の指導力及び児童の学力の向上を目指す。働き方改革について事前準備を徹底した上で効果的な会議運営を図り、時間内に終わらせる。	A	A		・先生方のご苦労が目に見えるようです。核家族化が進んでいる昨今、家庭での指導まで先生方にかかっている現状がおきらく感じています。 引き続きご指導よろしく申し上げます。 ・授業を円滑に進めていく上に、研修なども必要と思いますが、時間の調整など大変でしょう。先生方の日々の対応に感謝しかありません。限られた時間の中で会議の進め方や準備などにも工夫や方法が必要だと、様々な意見を持ちながら行われていることは良いことだと思います。少しでも時間短縮に効率よい会議となるよう願います。
30	働き方改革を推進し、業務改善等に取り組んでいる。	95		A	A			

来年度の重点目標(共通項目・学校独自項目の評価結果を踏まえて)					
(1)豊かな心を育てる。 道徳教育の充実、生徒指導・教育相談・人権教育の充実、読書活動の充実 (2)確かな学力を身につけさせる。 授業の充実・改善、指導体制の工夫、体験活動・言語活動の充実 (3)たくましい体(健康・体力)育てる。 体育授業・わくわくタイムの充実(運動好きな児童の育成)・効果的、効率的な体育的行事の実践 (4)チーム担任制による安全で快適な教育環境を整備する。 安全点検の確実な実施～老朽化・不良箇所への速やかな対応 (5)働き方改革を進めながら、教職員の資質・能力を向上させる。 働きやすい環境づくり(休憩時間の確保、効果的な会議等)、各種研修の推進					・ぜひ、特別支援教育の充実を入れていただきたい、小学校側をお願いしたいのは、通常の学級における特別支援教育の充実と、適切な数学である。いるなど数学である。いるなど数学である。 ・学校としての努力に感じています。近年、難しくなってきたようですから、どのように家庭を巻き込み必要な事だと感じてもらえるのか、課題の1つですね。日々ありがとうございます。お疲れ様です。

北本市立東小学校 学校運営協議会(敬称略) 会長 中谷 浩美 委員 池島 國夫 委員 新島 ちえ美 委員 亀井 泰子 委員 松尾 裕司 委員 前田 幸恵 委員 沢口 裕 委員 山下 健 委員 滝瀬 伸行	外部評価実施日 第1回 令和 7年 1月 17日(金) 第2回 令和 7年 2月 10日(月) 紙面 第3回 令和 7年 3月 4日(火)
--	--

- \*「自己評価の適切さ」について  
A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である
- \*「改善に向けた取組の適切さ」について  
A:十分な効果が期待できる B:ほぼ十分な効果が期待できる  
C:あまり効果が期待できない D:効果が期待できず改善を要する
- \*学校の取組に関する評価と今後の改善点等について  
・評価項目ごとの取組状況に対する評価や今後に向けての要望等を記入する。  
・自己評価書の項目を網羅的に評価するのではなく、「自己評価の高かった(低かった)項目」や「今年度の重点的な取組」に絞って記入する。
- \*その他全体的な留意点  
・外部評価書は1枚にまとめる必要はありません。(2枚以上可)  
・共通項目と学校独自の項目を別様に作成してもかまいません。  
・学校独自の評価項目、評価項目数は、各学校で決めてください。  
・学校運営協議会の総評欄は、共通項目、学校独自の項目の両方を踏まえての総評を記入してください。